CC BY SA

くらしに根ざしたデジタルアーカイブ

ー地方・地域アーカイブ推進のために

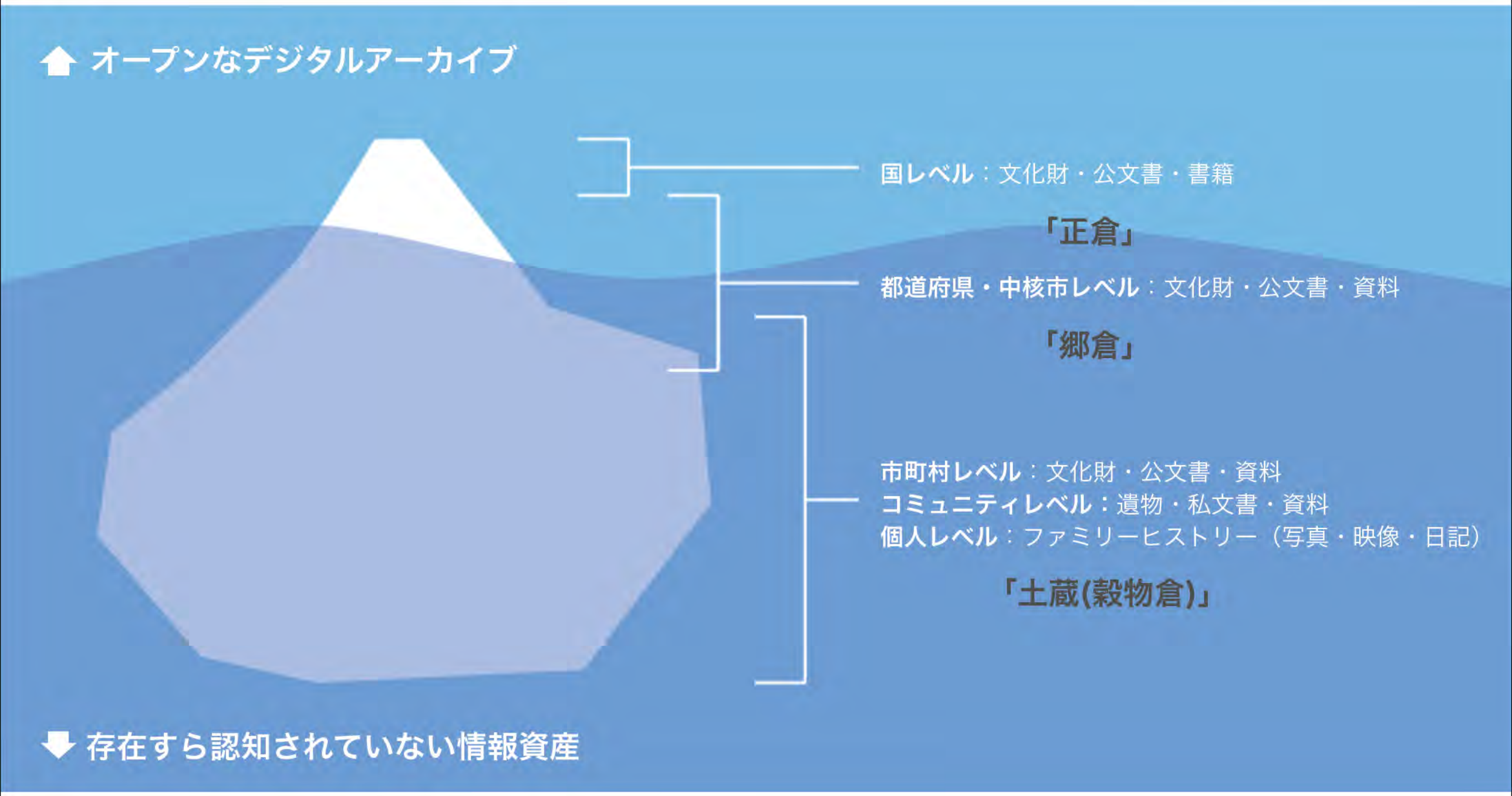
20171215_デジタルアーカイブ実務者検討委員会

地方社会の地域情報資産をめぐる現状

★消えていく「近代」150年の記憶

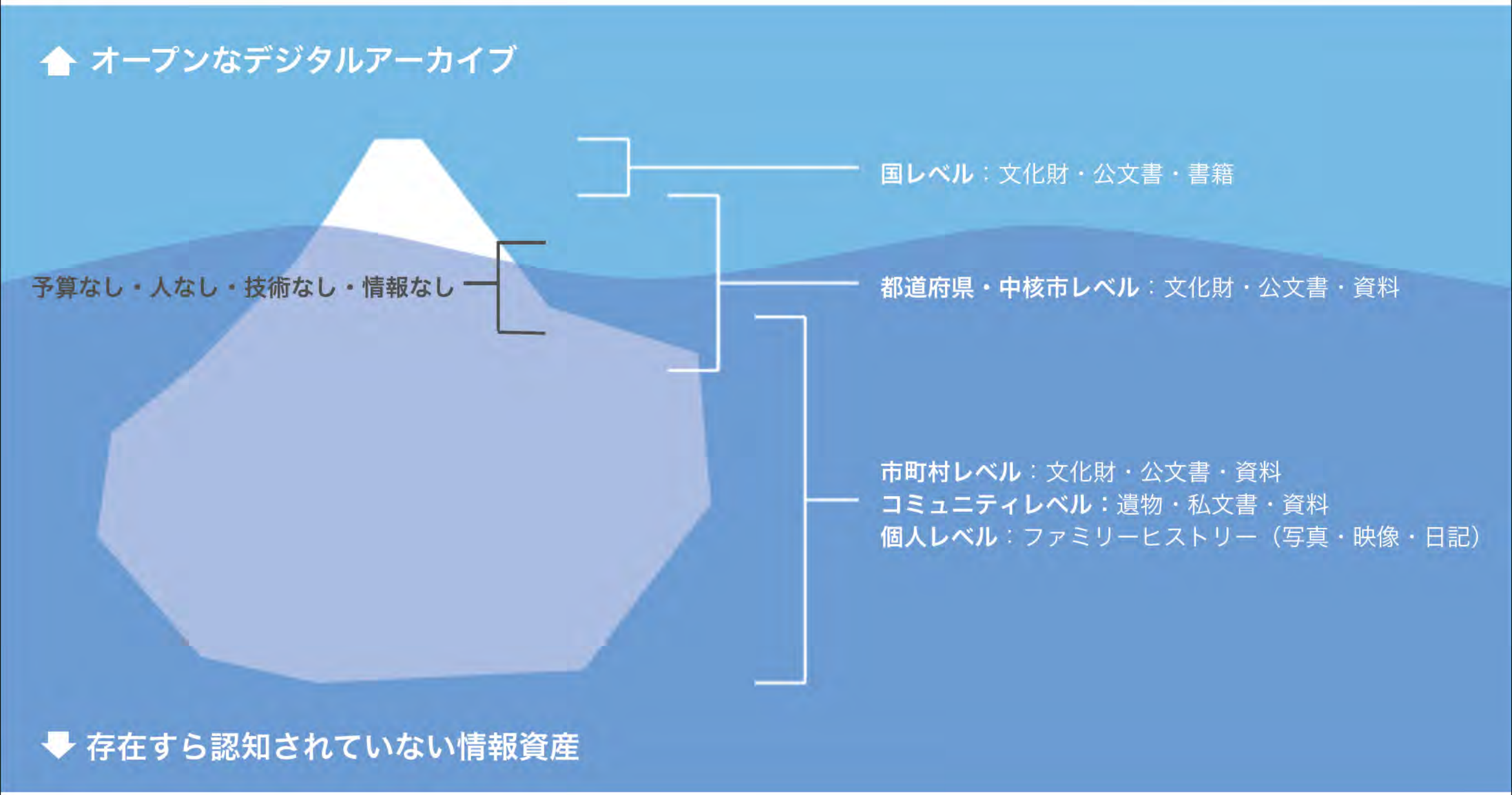
大正・昭和初期生まれ→団塊世代への世代交代
打ち壊され捨てられる地域情報資産

★「正倉」ではなく「郷倉」・「土蔵(穀物倉)」
を必要とする営みをつくる

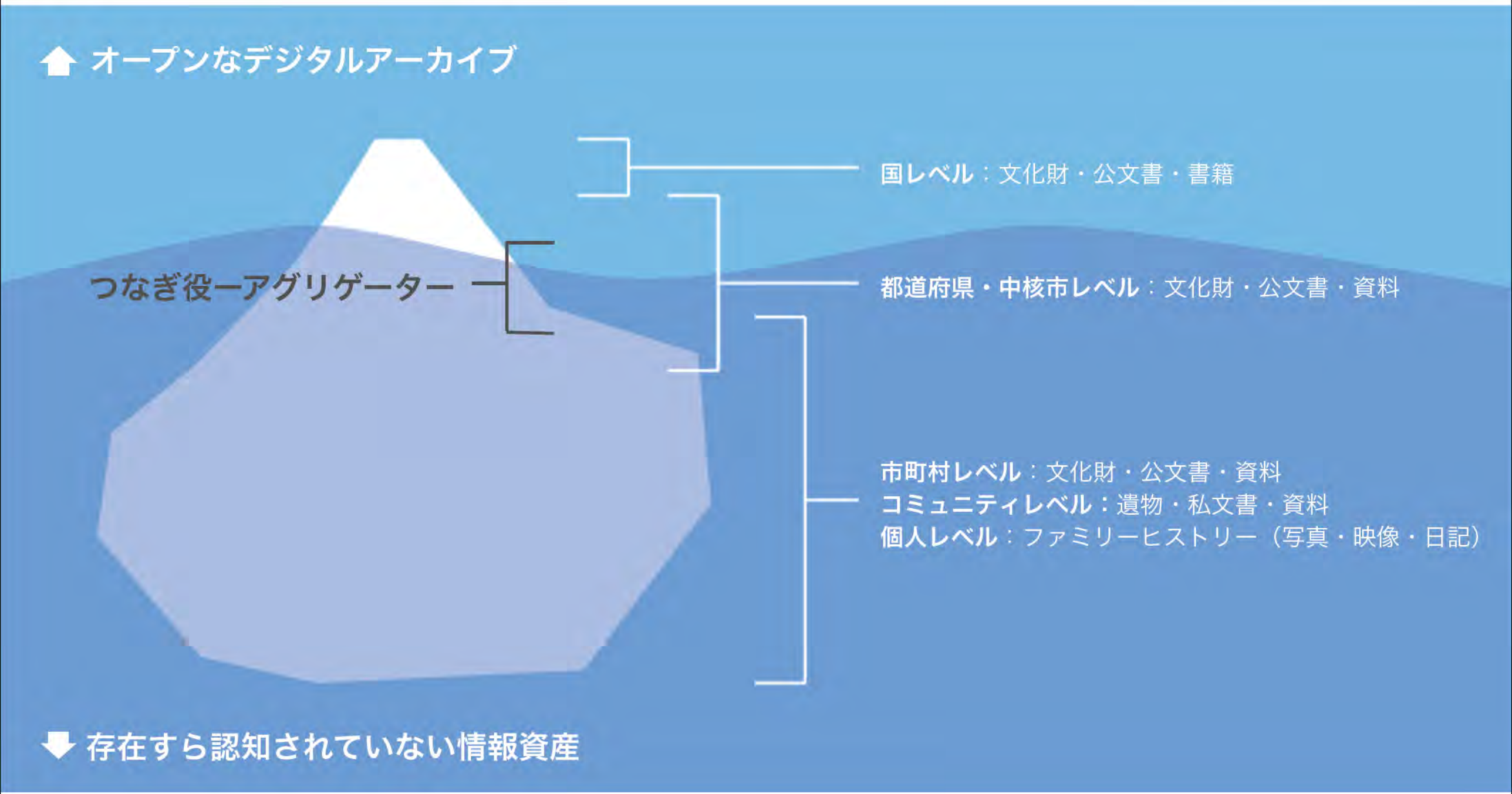


膨大な近代の地域の記憶・記録

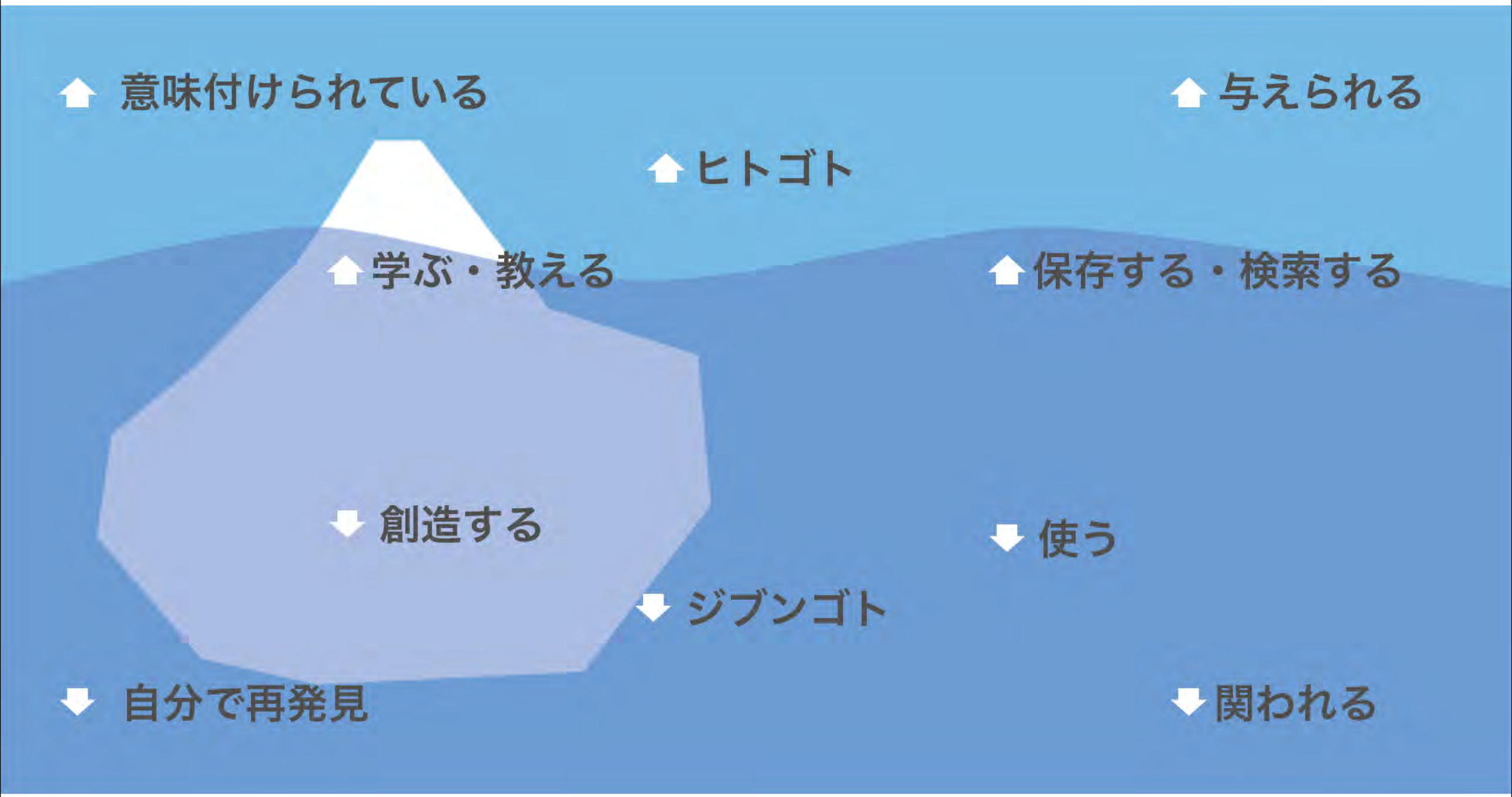
研 Ken-ya HIRAGA



これまで：進まない「機関」デジタルアーカイブ構築



これから：地域の情報資産をオープンに…
しかし、デジタル地域情報資産はつくられるか？



「生活文化圏」単位のデジタルアーカイブのインセンティブ
上から発掘し編むアプローチは機能しない

浮かび上がるファミリーヒストリー、コミュニティの共通の記憶
その上澄みをスキムするアプローチへ

研 Ken-ya HIRAGA

くらしに根ざしたデジタルアーカイブのイメージ

再発見する、創造する、ジブンゴト、使う、関われる…とは？

例えば

地域の地形・地質・歴史・技術にこだわる→防災・減災

高遠ぶらりプロジェクト(長野県・伊那市立図書館/高遠ぶらり制作委員会

再発見する、創造する、ジブンゴト、使う、関われる…とは？

浮かび上がるファミリーヒストリー、コミュニティの共通の記憶

例えば

地域の地形・歴史・技術にこだわる→エネルギー地産地消
→観光・地域活性化

高遠ぶらりプロジェクト(長野県・伊那市立図書館/高遠ぶらり制作委員会

再発見する、創造する、ジブンゴト、使う、関われる…とは？

浮かび上がるファミリーヒストリー、コミュニティの共通の記憶

研 Ken-ya HIRAGA

例えば

地域の歴史・技術にこだわる→産業・企業のブランド

高遠ぶらりプロジェクト(長野県・伊那市立図書館/高遠ぶらり制作委員会

再発見する、創造する、ジブンゴト、使う、関われる…とは？

浮かび上がるファミリーヒストリー、コミュニティの共通の記憶

例えば

地域の地形・地質にこだわる→ジオパーク・エコパーク
→教育・観光プログラム

高遠ぶらりプロジェクト(長野県・伊那市立図書館/高遠ぶらり制作委員会

再発見する、創造する、ジブンゴト、使う、関われる…とは？

浮かび上がるファミリーヒストリー、コミュニティの共通の記憶

例えば

地域を入口とした教育機会

高遠ぶらりプロジェクト(長野県・伊那市立図書館/高遠ぶらり制作委員会

再発見する、創造する、ジブンゴト、使う、関われる…とは？

浮かび上がるファミリーヒストリー、コミュニティの共通の記憶

例えば

地域の文化資産・芸術活動にこだわる→観光・地域PR

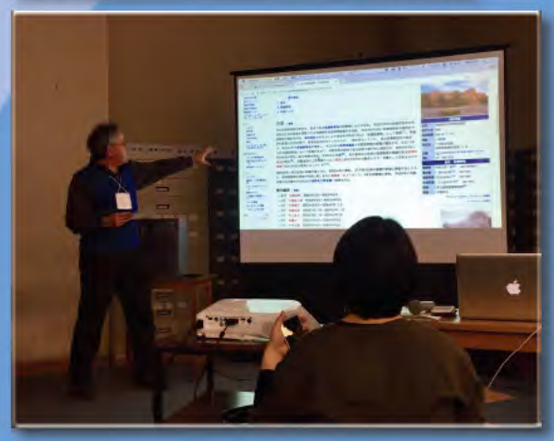
高遠ぶらりプロジェクト(長野県・伊那市立図書館/高遠ぶらり制作委員会

再発見する、創造する、ジブンゴト、使う、関われる…とは？

浮かび上がるファミリーヒストリー、コミュニティの共通の記憶

WikipediaTown

既存のオープンデータの枠組みで新たな地域情報資産を公開・蓄積



再発見する、創造する、ジブンゴト、使う、関われる…とは？

浮かび上がるファミリーヒストリー、コミュニティの共通の記憶

研 Ken-ya HIRAGA

信州学

探究型学習・ICT教育は2次情報資産創生の機会

再発見する、創造する、ジブンゴト、使う、関われる…とは？

浮かび上がるファミリーヒストリー、コミュニティの共通の記憶

研 Ken-ya HIRAGA

古文書・写真・映像・音源
オーラルヒストリー

1 集める

まちの移り変わりがわかる資料

原本の保存(文化施設・大学…)
デジタルデータで保存する
付記情報の保存

2 保存する

実物とデジタルで資料を残す

WEBでの地域・世界への発信
情報拠点での発信
まち歩きイベント
写真・地図を使ったアプリ
商品化
学習プログラム

3 活用する

まちの変遷に触れる

4 参加する

まちを知る、語る
まちを楽しみ、ファンになる

地域の人々
企業　大学

5 連携する・広げる

図書館　ミュージアム　生涯学習施設

地域アーカイブの視点
活用する・参加する

HUMI CONSULTING 中村佳史氏の「地域アーカイブ」に関する整理

古文書・写真・映像・音源
オーラルヒストリー

1 集める

まちの移り変わりがわかる資料

原本の保存(文化施設・大学…)
デジタルデータで保存する
付記情報の保存

2 保存する

実物とデジタルで資料を残す

WEBでの地域・世界への発信
情報拠点での発信
まち歩きイベント
写真・地図を使ったアプリ
商品化
学習プログラム

3 活用する

まちの変遷に触れる

4 参加する

まちを知る、語る
まちを楽しみ、ファンになる

地域の人々
企業　大学

5 連携する・広げる

図書館　ミュージアム　生涯学習施設

HUMI CONSULTING 中村佳史氏の「地域アーカイブ」に関する整理

LIBRARYの強み

－地域の情報と情報、情報と人、人と人をつなぐ場
－共知・共創、蓄積・公開の場

地域のデジタルコモンズ(くらしに根ざしたアーカイブ)

＊コミュニティの循環する知的創造プロセス
＊地域生活台の「記憶の銀行」としてのデジタルアーカイブ
＊ブリコラージュとしてのアーカイブ

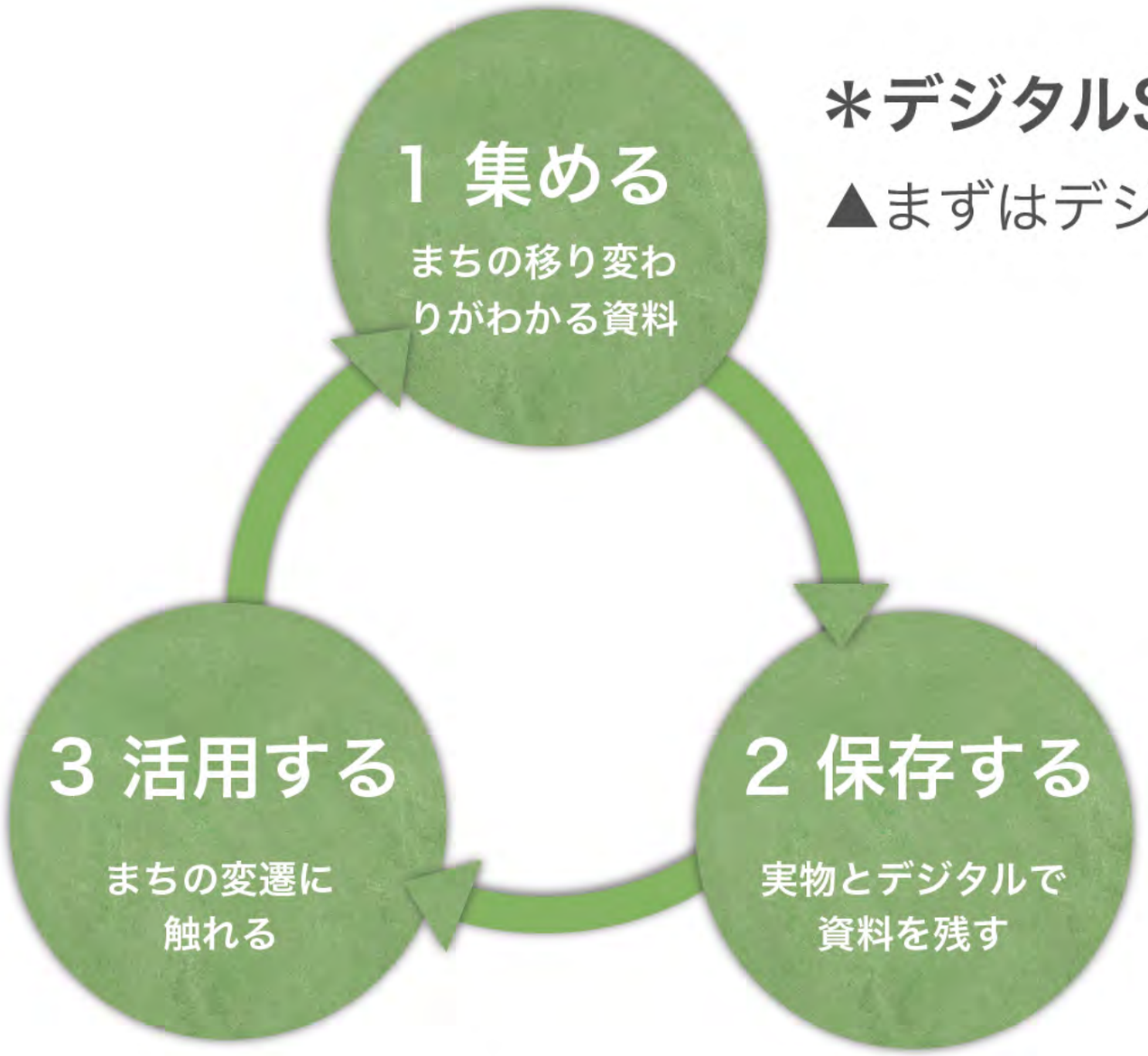
＊ツール・メディアでもイベントでもない仕組
＊活動を生み、継続させる「関わりしろ」のある技術基盤

＊ファミリーヒストリー・コミュニティの記憶こそ
「ジブンゴト」としてのアーカイブの出発点

地域のデジタルコモンズを持続させるしくみ

地域情報資産をデジタルにするインセンティブの設計

研 Ken-ya HIRAGA



＊デジタルStudio

▲まずはデジタル情報資産化を促進

＊デジタルアーカイブ

＊データベース

▲これまで、ここにばかり着目してきた

＊アプリケーション・プラットフォーム

＊オープンデータ・コミュニケーション・メディア

▲表現する・デザインする・オープンに公開する

＊アプリケーション・プラットフォーム

GIS/地図、インフォグラフィックス、写真加工、ゲーム
など無料もしくは廉価に利用できるアプリケーションの開発・公開を
支援するデジタルアーカイブジャパンのプラットフォーム

＊ナショナル・オープンデータ・コミュニケーション・メディア

簡便にメタデータを付し、自分でアップロードし
オープンデータとしてファミリーヒストリーアーカイブも
構築し公開できる instagram/**facebook** 的プラットフォーム

ジャパンサーチ「キュレーションページ・電子展示会」をオープン化するイメージ

＊デジタルアーカイブスタジオ

個人・団体・企業誰もが利用できるデジタル化支援スタジオ
ccベースで家族アルバム、日記、資料をデジタル化
レファレンス・レフェラル・情報リテラシーサポートも受けられる

→全国3,200の公共図書館(もしくはそのうち郡域=生活文化圏レベルの市立)
→県域の1～数カ所に専門的スタジオ

平賀 研也　ひらが・けんや

1959年仙台生まれ、東京育ち。法務・経営企画マネージャーとして企業に勤務。その間、米国中西部にくらし、経営学を学ぶ(イリノイ大学経営学修士)。
2002年伊那に移住。公共政策シンクタンク(NIRA: 総合研究開発機構)の研究広報誌編集主幹を経て、2007年4月ー2015.3月の間、公募図書館長として 伊那市立伊那図書館館長を務める。地域アーカイブ活動等コミュニティに根ざし、地域情報資源を創生する図書館活動により、Library of the Year 2013 大賞受賞。
実感ある知の獲得と世界の再発見、情報リテラシー向上に寄り添える地域情報のハブとしての図書館、「伊那谷の屋根のない博物館」の「屋根のあるひろば」を目指す。伊那谷の豊な自然環境とくらしの知恵を知り、学び、「実感ある知」を獲得すること、「情報と情報、情報と人、人と人をつなぎなおす」ことが、これからのくらし、社会を考え、地域のイノベーション、新しいパブリックの創造する人々のエンパワーメントにつながるはず。
2015.4 県立長野図書館長に就任。信州の情報基盤の構築とこれからの公共図書館のあり方をめぐる対話を続けている.

k_hiraga@i.softbank.jp
https://www.facebook.com/kenya.hiraga

配付資料：

＊「Library3.0：明日をつくる多様な知のコモンズ（共有地）としての図書館を構想する」
「社会教育」2016年11月号
＊『明日をひらく図書館ー長野の実践と挑戦』宮下明彦・牛山圭吾編著
（青弓社, 2013.6)
「公募図書館長がプロデュースする伊那市立図書館ー "伊那谷の屋根のない博物館"の"屋根のある広場"へー」
＊『社会教育』2014年11月号 「公民館・図書館・博物館の連携」（特集）
「地域に立ち、学びを"知の体系"から解き放つ - "地域の知のコモンズ（共有地）"の構築とその活用の可能性」

図書館等に関する主なエッセイなど

＊『ライブラリー・リソース・ガイド』第13号 2015年12月
司書名鑑 No.9「平賀研也」
＊『社会教育』2011年10月号「魅力ある社会教育事業を企画・実施するために」(特集)
「地域の自然・環境・くらしに学び「懐かしい未来」の生活文化を創造するー「伊那谷自然環境ライブラリー」・変革期の事業企画とは？」」
＊『社会教育』2010年11月号 「社会教育施設紹介」
「地方小都市にある「フツーな図書館」の今」
＊『KURA』2010年11月号 「信濃にやか」(対談)
「公募で就任した図書館長、信州の図書館の在り方と未来、展望を大いに語る」
＊『社会教育』2013年2月号 「創刊800号ー私の社会教育提言ー」（特集）
「"スロー"ラーニングのススメー地域の自然・環境・くらしに学び「懐かしい未来」の生活文化を共創しよう」
＊『伊那路』2013年4月号 飯田線特集号
「幻の「伊那町南停留所」—デジタルコモンズがひらく新しい地域知の世界ー」
＊『地域文化』2014春 No.108　「特集 ー信州の町ー「高遠」」
「住む人の心に 歴史が刻まれた町　対談 矢澤章一 x 平賀研也」（八十二文化財団, 2014.4.1)
＊『日本生涯教育学会年報』第35号 2014年「成人力と生涯学習」
「知のエンパワーメントは"地域"から - "地域"にこだわり，"実感"ある知の獲得により"知を消費"するから"知を育む"へ」
＊『第100回全国図書館大会要綱』2014年10月
第110公募分科会「図書館ぶらり部：スマートフォン時代の知の情報デザイン」
「新しい"知るスタイル"と公共図書館のこれから」
＊『信州大学附属図書館研究』2015年1月
「伊那市立図書館の取り組み：伊那谷の屋根のない博物館の屋根のある広場へ」

facebookノート「平賀研也全発言絶賛大迷惑刊行中」からも読むことができます

https://www.facebook.com/notes/平賀-研也/-平賀研也全発言絶賛大迷惑刊行中/681708848574491

本スライドは slideshare.net で公開(CC-BY-SA)

検索: Kenya Hiraga
ファイル: 20171215_デジタルアーカイブ実務者検討委員会